

平成20年11月26日

各 位

上場会社名 株式会社 宮入バルブ製作所
 代表者 代表取締役社長 高井 洋
 (コード番号 6495)
 問合せ先責任者 取締役総務部長 佐野 邦男
 (TEL 03-3535-5575)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年8月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,250	60	50	△1,915	△40.06
今回発表予想(B)	2,264	27	42	△3,791	△83.91
増減額(B-A)	14	△33	△8	△1,876	――
増減率(%)	0.6	△55.0	△16.0	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	2,804	26	△95	△130	△5.31

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,300	250	220	△1,750	△36.61
今回発表予想(B)	4,700	130	140	△3,690	△77.19
増減額(B-A)	△600	△120	△80	△1,940	――
増減率(%)	△11.3	△48.0	△36.4	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	5,079	△192	△479	△561	△19.80

修正の理由

平成21年3月期第2四半期累計期間の売上高につきましては、前回予想を若干上回る結果となりましたが、当社の主力製品であります液化石油ガス容器用弁の需要回復が予想以上に遅延したことが収益面に影響し、営業利益、経常利益共に予想を下回る結果となりました。

また、四半期純利益につきましては、保有有価証券の株価下落により、投資有価証券評価損632百万円を計上したことと、長期貸付金に対する貸倒引当金3,176百万円を計上したことにより、四半期純損失は、3,791百万円となる見込みであります。

貸倒引当金に関しましては、平成20年8月14日付、平成21年3月期第1四半期決算短信において公表いたしましたとおり、当社の貸付先において長期貸付金の回収可能性について疑義が生じたことから、暫定的に当該長期貸付金額の50%に相当する1,525百万円を貸倒引当金として計上いたしました。その後、当該貸付先及び他の貸付先から、財務諸表等の資料を入手し、回収可能性について検討を重ねてまいりました結果、誠に遺憾ながら、回収可能性の疑義を完全に払拭するには至りませんでした。

当社といたしましては、返済期日までに当該貸付金を順次回収すべく、貸付先に対して返済計画の提出を引き続き要求してまいりますが、当第2四半期におきましては、当社が把握しております当該貸付先の9月末時点における保有資産価値等を勘案した上で、当社の貸倒引当金に関する内規に基づき、貸倒引当金として3,176百万円を計上する見込みであります。

今後当社は、当該返済計画に基づき貸付金の回収を順次図ると共に、既存事業につきましても、海外からの部品調達による製造原価の低減施策および新生産管理システムの導入による生産効率の向上施策等の諸施策を推進し、収益性の向上を目指します。

また、新規事業といたしまして従来から取り組んでおりますLNGを中心としたクリーンエネルギー分野の新製品および高付加価値製品の早期開発も同時に行い、事業規模の拡大を図ってまいります。

当社は、上述の既存事業の収益性向上施策および新規事業の業績拡大施策を強力に推進するとともに、企業基盤の強化を目的とした資本施策等も併せて実施し、早期業績回復に向けて一層の努力を行ってまいります。

尚、平成21年3月期通期業績予想につきましては、売上高は第2四半期での液化石油ガス容器用弁の売上減が影響し減収となる見込みです。収益面につきましても、液化石油ガス容器用弁の売上減の影響により減益となる見込みであります。

当期純損失につきましては、当第2四半期の業績修正に伴うものであります。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なることがあります。

以上